

10月27日~11月9日は「読書週間」

# 本をコミュニケーションツールに! 始めよう、「うちどく(家読)」

子どもたちの豊かな創造力を育むとともに、家族のコミュニケーションが深まる手段として注目されている「うちどく(家読)」。授業が始まる前に学校で読書をする「朝の読書」とあわせて、家庭で取り組む読書として積極的に推進する自治体が増えている。なかでも、行政が図書館や書店と連携し、独自の発想で読書への関心を高めることに成功している山梨県の取り組みを紹介する。



読書を推進するキャッチコピーを募集し、約3,000作品の中から選ばれた最優秀賞作品がロスマークに使われた

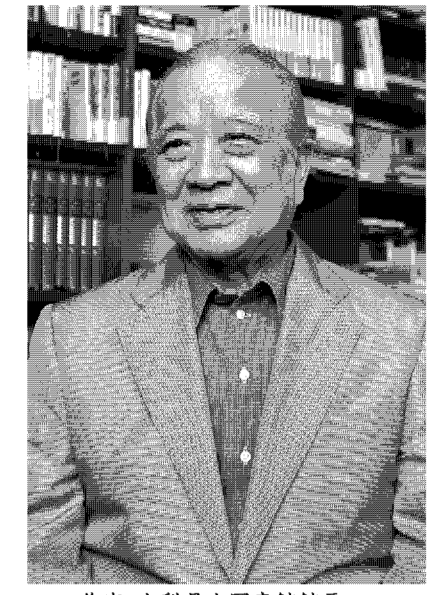
「うちどく」とは何から広げられることか

2012年11月に県立図書館がリニューアルオープンし、来館者数が2倍以上に増えた山梨県は、読書に親しむ環境づくりが成果を上げていく都道府県のひとつだ。県立図書館が新しくなった12年度からは、自分や他人の生き方を認め合える子どもを育てる「しなやかな心の育成プロジェクト」の一環として、「うちどく」の普及に力を入れてきた。読書をきっかけに家族のコミュニケーションを深め、心豊かな子どもを育てようというのだ。

活動を推進している山梨県教育庁の小林みずほさんは、「以前から親子の読書を推奨する学校はあったが、年一回のイベントとして細々と続けているような状況でした。そのため、ロゴマークとポスターを制作し、「うちどく」とは何かを広く知ってもらおうと、から始めました」と言う。

翌年は、子どもに読んでほしい本や、親子で読みたい本を県民から募り、「家読100選」を選定した。「乳幼児」「小学校1・2年生」「小学校3・4年生」「小学校5・6年生」「中学生」の年齢層ごとに推薦図書を決め、県内の学校にパンフレットを配布。乳幼児向け

## 読書で健やかな心を育てる



作家、山梨県立図書館館長 阿刀田高さん

あとうた・たかし/1935年生まれ。早稲田大学卒業後、国立国会図書館に勤務しながら執筆活動を始め、78年「冷蔵庫より愛をこめて」でデビュー。直木賞ほか受賞歴多数。2012年から山梨県立図書館館長を務める。

Special Interview

### 本という小さな宇宙のなかで 無限の想像力をはたらかせて

僕が少年だった昭和20年代、子ども向けの本は貴重だったから、とじ糸がほつれた童話集も宝物のように読んでいた。町の書店といえばその土地の文化機関で、「あの町のあの本屋」といって誰しも知らなかった。昭和20年代、子ども向けの本は貴重だったから、とじ糸がほつれた童話集も宝物のように読んでいた。町の書店といえばその土地の文化機関で、「あの町のあの本屋」といって誰しも知らなかった。

もなんらかの思い出を持っていて、その本が読まれている。読書スタイルが多様化してきて、こうした紙の本がもつ文化を廃れさせてはならないと思えます。

断片的な情報の寄せ集めとは異なる。本はそれ自体が小さな宇宙をかたちづくっています。読書はその宇宙のなかで、自由に想像力をはたらかせることができるわけですね。それはアーティストと対話をするのと同じこと。マルクス時代の旅をすることもできる。

読書はしない子どもが増えているといわれますが、大切なのは楽しそうに本を読む人が、子どもたちを大人が本を読む習慣を身につけること。本を「読むな」と言うより、「宿題をしなさい」とお父さんは本を読む」と言う方が

よほど本への興味をかきたてます。「読みかきせ運動」だけではなく、子どもが読むのを親がきく「読みかきせ運動」があってもいいのかもしれない。

山梨県立図書館の児童書コーナーでは、声に出して本が読めるスペースを設けています。県にも読書を贈る習慣を作ろうと県に呼びかけ、様々なイベントを開催しています。山梨県で成功させて、全国で同じような動きが生まれればうれしいですね。

ただ、読書はへん曲がりなところがあります。僕なんかは「この本を読んで感想文を書きなさい」と言われたら、途端に読む気がなくなってしまう。読書のよさは、自由があることです。大切なのは、読書を楽しんで、みずから本に手を伸ばす子どもを育てることなのです。(談)

「うちどく」で読みこーせーション

全国の小・中・高校で授業が始まる前の10分間、生徒と教師全員が好きな本を読む「朝の読書」は、全国約27,700校で実践され、約970万人の児童・生徒の読書習慣として定着。「うちどく」は、こうした子どもたちの読書の習慣を家庭にも広げようと2006年にスタートした。本をコミュニケーションツールにして語り合うことで、お互いが理解しあひ絆を深める取り組みとして注目され、全国に広がっている。

●うちどく公式ホームページ [http://www1.e-hon.ne.jp/content/uchidoku\\_top.html](http://www1.e-hon.ne.jp/content/uchidoku_top.html)

●「うちどく」に関するお問い合わせ先 トーン広報室「うちどく」係 TEL:03-3266-9587

県民参加のイベントで 楽しみつつ本に触れる

さらに、県立図書館とともに新たな取り組みも始めている。山梨県教育庁の高保裕樹さんは、「これまで読書推進では、たまたま本を手に取って読むというスタイルが中心でしたが、今年からは、誰かに本を贈ったり、贈ってもらったりしたイベントを募集したところ、全国から900以上の作品が寄せられました。予想外の応募に驚いています。」

山梨県では書店が行政と連携し、「贈りたい本大賞」を全国から募集しており、大賞は一般投票で決められる予定だ。詳しくは山梨県立図書館のHPで確認を。  
(<http://www.library.yamanashi.jp/>)

山梨県では書店が行政と連携し、「贈りたい本大賞」を全国から募集しており、大賞は一般投票で決められる予定だ。詳しくは山梨県立図書館のHPで確認を。  
(<http://www.library.yamanashi.jp/>)

星の王子さま

ハッピーバースデー

ポップコンテストには趣向を凝らした作品が寄せられた(入賞作から)

11月15日(土)までは、大切な人に贈るとしたら、どんな本を、どんな理由で選ぼうかを書いて応募する「贈りたい本大賞」を全国から募集しており、大賞は一般投票で決められる予定だ。詳しくは山梨県立図書館のHPで確認を。  
(<http://www.library.yamanashi.jp/>)

## 「うちどく(家読)」 「朝の読書」を応援します。

<p>集英社みらい文庫</p> <p>伝記シリーズ 愛をつたえる人</p> <p>ナイチンゲール/ヘレン・ケラー/マザー・テレサ</p> <p>時海結以 著/モ子 絵</p> <p>世界中で尊敬される3人の女性の伝記を「一冊に」人のために尽くした彼女たちの生涯をわかりやすく伝えます。</p> <p>新書判 192頁 670円</p> <p>978-4-08-321155-3</p> <p>集英社</p>	<p>しんでくれた</p> <p>谷川俊太郎 詩/塚本ゆずし 絵</p> <p>食品となった牛や豚はしんでくれた。心にも響く詩と力強い絵で、「命をいたたけ」との意味を伝えます。</p> <p>250mmx220mm 32頁 1404円</p> <p>978-4-333-02650-0</p> <p>佼成出版社</p>	<p>虫ロボのぼうけん</p> <p>カブトムシに土下座!?</p> <p>吉野万理子 作 安藤勝子 絵</p> <p>都会から引越してきた虫ロボはおじいちゃんからもらったカブトムシに乗り込み、カブトムシに会いに行くことに!</p> <p>A5判 175頁 1404円</p> <p>978-4-652-20060-5</p> <p>理論社</p>	<p>かわいっこねこをもらってください</p> <p>なりゆきわがこ 作 垂石真子 絵</p> <p>いちいちはねこを拾いました。でもお家は飼えません。小さな命を守るために、なつた女の子のお話。</p> <p>A5変型判 71頁 972円</p> <p>978-4-591-09938-4</p> <p>ポプラ社</p>	<p>先生、しゅくだいわすれました</p> <p>山本悦子 作/佐藤真紀子 絵</p> <p>じょうずにしゅくだいをやったら、宿題を忘れてしまった。翌日から子どもたちは、順番で宿題を忘れることに...</p> <p>A5判 96頁 1188円</p> <p>978-4-494-02041-6</p> <p>童心社</p>	<p>かあちゃん取扱説明書</p> <p>いとうみく 作/佐藤真紀子 絵</p> <p>いつもガミガミのさいかあちゃんを、思い通りに動かしたい! ひそかに、トリセツを書きはじめた哲哉は...</p> <p>A5判 152頁 1296円</p> <p>978-4-494-02033-1</p> <p>童心社</p>	<p>怪獣イビキングをやっつけろ!</p> <p>岡田依世子 作/坂垣トオル 絵</p> <p>千奈子は、パパの体をのことうと大あはれしている怪獣イビキングをやっつけろ! という、恐ろしい作戦を...</p> <p>A5判 128頁 1404円</p> <p>978-4-337-33623-0</p> <p>国土社</p>	<p>日本気象協会 気象予報の最前線</p> <p>深光富士男 文</p> <p>観測・予報技術の進化を、気象予報の判断を日々下す日本気象協会に密着取材。多彩な気象ビジネスも紹介。</p> <p>A5判 144頁 1620円</p> <p>978-4-333-02670-8</p> <p>佼成出版社</p>	<p>はしれ! 小学生まじよ</p> <p>中島和子 作/秋里信子 絵</p> <p>リリコがまじよの血をうけついでいることは絶対に秘密です。でも、秘密を知るケイくんがある要求をします。</p> <p>A5判 96頁 1188円</p> <p>978-4-323-07299-9</p> <p>金の星社</p>	<p>なぜかけどうじょう</p> <p>中島和子 作/大島妙子 絵</p> <p>「〇〇がけどうじょう、その心は〇〇」といふおなじみの「なぜか」をユーモアたっぷりに描きました!</p> <p>246mmx214mm 32頁 1404円</p> <p>978-4-323-07289-0</p> <p>金の星社</p>
---	---	--	--	---	---	--	--	---	--

<p>小学館文庫</p> <p>デビクロくんの恋と魔法</p> <p>中村航 著</p> <p>4人の片想いが聖なる夜に重なる時、デビクロくんが奇跡を連れてくる。話題の映画原作本、待望の文庫化!</p> <p>文庫判 288頁 648円</p> <p>978-4-09-406087-4</p> <p>小学館</p>	<p>雨の降る日は学校に行かない</p> <p>相沢沙弥 著</p> <p>昼下りの保健室。たまたたのガラス窓に響く雨の音。6人の中学生の心を結ぶ。切ない連作短編集。</p> <p>四六判 240頁 1404円</p> <p>978-4-09-771552-1</p> <p>集英社</p>	<p>白瑠璃の輝き</p> <p>国元アルカ 作</p> <p>事件を起す、祖母と暮らすことになった拓。同級生の瑠璃と出会う。拓の心に不思議な変化をもたらしていく。</p> <p>四六判 166頁 1404円</p> <p>978-4-337-18756-6</p> <p>国土社</p>	<p>13歳からの料理のきほん34</p> <p>アントラム 栢木利美 著</p> <p>「1カップは1合はどのくらい?」など、料理本には載っていない料理の常識を伝授。一番頼りにする料理お助け本。</p> <p>四六判 144頁 1404円</p> <p>978-4-7593-1372-7</p> <p>海竜社</p>	<p>13歳からの料理のきほん46</p> <p>アントラム 栢木利美 著</p> <p>掃除・洗濯・裁縫まで、家事の基本をから伝授。本当に必要な生活の知恵が満載。この1冊で自活できる!</p> <p>四六判 160頁 1296円</p> <p>978-4-7593-1268-3</p> <p>海竜社</p>	<p>伝説のエンドーくん</p> <p>まはる三郎 著</p> <p>市立緑山中学校で語りつづられるヒーロー! エンドーくん。彼の伝説が、教師に、生徒に、勇気と希望を与える!</p> <p>B6判 272頁 1512円</p> <p>978-4-09-290579-5</p> <p>小学館</p>	<p>水の精とふしぎなカヌー</p> <p>岡田厚 作</p> <p>どこかあるかわからない、こそあどの森。ふしぎがいっぱい。川から流れてきた小さなカヌーは、だれのもの?</p> <p>A5判 190頁 1836円</p> <p>978-4-652-20027-8</p> <p>理論社</p>	<p>メッシ</p> <p>ハンテをのりこえた小さなヒーロー</p> <p>マイケル・バート 著/橋本正人 訳</p> <p>メッシの少年時代をえがくノンフィクション。背のびない病気を克服し、バルセロナに入団するまでの物語。</p> <p>四六判 175頁 1296円</p> <p>978-4-591-13603-4</p> <p>ポプラ社</p>	<p>かえるの竹取ものがたり</p> <p>依方智 文/斎藤隆夫 絵</p> <p>日本最古の物語。かぐや姫の話から生まれた三十一の絵本。登場人物が全てかえるで描かれています。</p> <p>B4変型(290mmx305mm) 48頁 1844円</p> <p>978-4-8340-8121-3</p> <p>福音館書店</p>	<p>どろぼうのどろぼん</p> <p>斎藤隆夫 作/牡丹晴佳 画</p> <p>絶対につつまらぬ泥棒どろぼん。雨降る午後、あじさいが咲き誇る庭で、どろぼんをつかまえた。</p> <p>四六判 280頁 1620円</p> <p>978-4-8340-8122-0</p> <p>福音館書店</p>
--	---	--	--	---	---	---	---	---	---